

私は グラン・マーマレード。
マーマレードおばさんよ。

マジカル・オレンジが たわわに実る 森の奥、
マーマレード作りに精をだす。
一日中 ぐつ ぐつ ぐつ ぐつ 大きなおなべをかきまわし
マーマレードをたいている。

たそがれが 音もなく忍びより
空がいつとき マーマレード・イエローに燃え上がる。
一日の中のマジカル・タイム、そのときに 最後の一さじをかげんして
私の自慢のマーマレードができあがる。

その時 その時の思いをこめて、少しづつ違った味のマーマレード。
ひとさじ 口にふくんで、その甘ずっぱいおいしさが
人の心を 少しでも慰められたら・・・と
そんなことを考えながら、小さなびんに 詰めていく。

それを必要とするだれかさんが すぐ手にとれるようにと
ラベルをはって 店の棚に 並べておくわ。

よかったら あなたもいらっしゃいな
グラン・マーマレード マジカル・ビレッジに・・・
すてきなおいしいマジカル・マーマレードをあげますよ。

【巻頭詩】

グラン・
マーマレードの歌

作者：鈴木純子（本名：金内純子）

神戸市生まれ。京都市立芸術大学西洋画科を卒業後、絵本に興味を持ち、講談社絵本新人賞、小学館童画新人大賞などに応募し、入選を重ねる。1985年第1回大阪国際児童文学館ニッサン童話と絵本のグランプリで絵本優秀賞を受賞、1989年「サンタクロースのさいごのプレゼント」が第5回の同グランプリで絵本大賞を獲得した。

現在は絵本及び雑誌のイラスト、キャラクター制作などの仕事をしている。

住所：大阪府枚方市上島町6-1-603

目

.....

グラン・マーマレードの歌	2
目次	2
曾我部さん海遊館スクール成功裡に終了！	3
障害を持つ人達のための	
パソコン通信セミナー	6
VANGUARDいよいよ活動開始！	8
PROGRESS	9
人クローズアップ	
画家・西村勇三さんに聞く	16
アクセシビリティ関連機器のご案内	21
キータッチに思いをこめて	28
今、障害者雇用に取り組む企業 清水建設	32

次

.....

「クマさんのコンピュータ作曲入門」	
自分の音楽を作ってみよう VOL.1	36
我羅門のネットワーク通信よもやま話	41
風流京愛の俳句コーナー	44
投句のページ	45
チームメイト	45
KUJIやん&なでの観て食べ歩記	
Part1 新梅田シティ・スカイビル探訪	46
そして神戸	48
ブロップ・ネットの話題から'94/1Version	52
No mountain is too high to climb～山険しくとも～	
全盲のキャラ・ダンさんを囲んで	54
お知らせ	57

曾我部さん

海遊館スクール

成功裡に終了!

文 竹中 ナミ
写真 木地本 昌弥

8カ月という長い準備期間の後、多くの人達のご協力を戴いて曾我部教子さんの海遊館における理科スクールが実施されました。12/4(土)リハーサル、12/11(土)スクール本番という日程でした。

今回のスクールの特徴は何といっても「マルチメディアを導入した実験スクール」ということです。アップルコンピュータ株式会社のご協力により、Quadra840AVという最新機種にPlainTalkという音声認識ソフトを組み込んで、曾我部さんが作成されたチャート図や写真、ビデオ画像などを随時音声で呼び出しながら、スクールが展開されました。

テーマは「生物の繁殖」。海遊館でのスクールという事で、主に魚類の繁殖を中心に、生物が生きていくためにどんな工夫をしているのか・・・という点を中心に授業が進められました。

受講されたのは、小学校5～6年生の男女児童とそのご父兄(計20名)です。

曾我部さんが一方的に講義する形式でなく、生徒の皆さんに実感してもらえる授業を、という事でまず「一腹のたらこに、どれだけの数の卵が有るか数える」という観察からスタートしました。

たらこから1グラム分を切り取り、それを小分けにしたものを爪楊枝を使って真剣に数える親と子。途中で何度も数え直したりしながら、グループ毎にその数を発表しました。合計し、重さをかけ算し

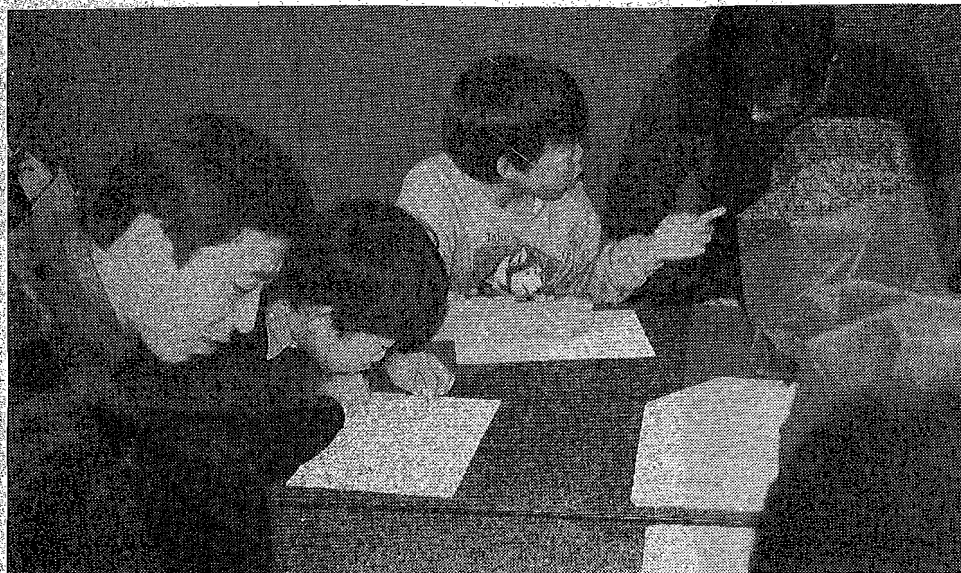
てみると・・・なんと1腹に約20万個の卵が有る事が分かりました。

「こんなにたくさんの卵を産んでも、生き残るのはほんの数匹。マンボウに至っては2億の卵のうち1～2匹しか成魚になれないのよ」という曾我部さんの説明に、生物が生きていく事の厳しさを皆、実感したようでした。

その後、マウスブリーダなど口の中で子どもを守る魚類や、ほ乳類のように母親の授乳と保護で生き延びていく生物の話が続き、自然界の食物連鎖の中で生存する事の素晴らしさを、写真やビデオの映像を観ながら考えました。



1年ぶりに子供たちを前にし、笑みこぼれる曾我部さん



「199、200・・・」真剣にたらこの数を数える父と子

TVや新聞など報道各社のカメラの放列に囲まれて、親子ともになかなか緊張の取れない様子でしたが、終わってからの感想は、
「面白かった」
「学校でもこんな授業が受けられたら良いのに」
「自分で色々触って覚えられたのが良かった」
など、子ども達は楽しそうに話してくれました。また、ご父兄は、
「パソコンがかなり学習に使えるものであると認

識した」

「身近に観察できる素材があるにもかかわらず、気付かない」

「自分たちが、教科書やテスト主義になっている事を認識」

「コンピュータをもっと教育現場に導入すべきでは」

「障害者と健常者が助け合っている形態を作る必要を感じた」

などの感想を聞かせて下さいました。



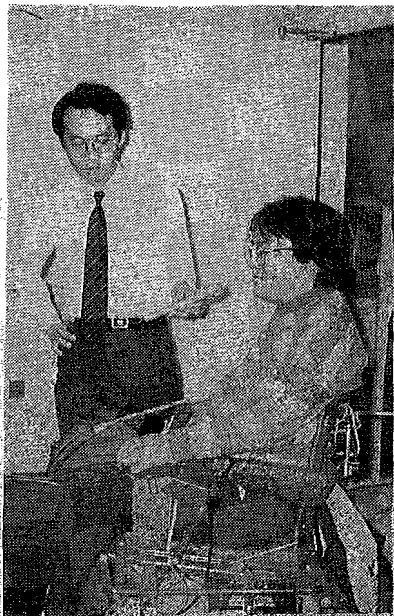
音声認識装置で画像を動かす

障害を持つ人達のための パソコン通信セミナー

竹中 ナミ

昨年11月13日、27日（いずれも土曜日）の両日、プロップ・ステーション主催のパソコン通信セミナーを開催しました。

開催にあたり一番悩んだのは場所の問題です。交通至便で車いすの人が利用でき、コンピュータと電話回線が有って、なおかつ無料で使わせて戴ける場所・・・そんな虫の良い希望を叶えてくれる所は無いものかと大阪市内の公的な建物や企業にアタックしてみましたが、どこも全てをクリアする事が出来ずあきらめかけていたところに、朝日新聞コミュニケーションホールが「使って下さい」と嬉しいお返事を下さいました。併せて、朝日新聞大阪厚生文化事業団もご後援を下さる事になり、新聞報道のご協力も戴いて無事、開催する事が出来ました。



「パソコンの音声装置について」柳原氏
(左)に、回答をふられた「うめ吉」

また、講師に大阪大学助教授で工学博士（通信工学科）中野秀男先生と、株式会社クボタ素材事業部情報化推進プロジェクト課長補佐の柳原秀基氏をお迎えし、実施スタッフとして多くの企業エンジニアの皆様にもボランティアなお力添えを戴きました。

受講生募集の新聞記事への応募から、2日間で23人の障害を持つ方々にセミナーを受けて戴く事ができましたが、そのうち7人の方は聴覚に障害をお持ちでした。この7名の方々には大阪府難聴者協会のご協力でご要約筆記者が延べ6人公費派遣でお越し下さり、筆記した文字をテレビ画面に映し出す、という最新の機器でサポートして下さいました。

ご協力下さった皆様様に、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

セミナーは、前半の1時間が中野先生の講演、後半の2時間が柳原氏による実技実習という形で行われました。中野先生のお話のテーマは「パソコン通信の歴史と未来」で、OHPを駆使しての大変分かり易いものでした。障害を持つ人達にとってパソコン通信のコミュニケーション手段として、また情報発信や収集の手段としての有用性と、中野先生ご自身が携わっておられるインターネット（世界140カ国・180万台のコンピュータと





グループに別れて実習。ネクタイ姿が中野先生

接続している通信網)とプロップNETとの今後の連携の可能性など興味深いお話の数々に、受講生のみならずスタッフまでもが多くの事を学ばせて戴きました。特にインターネットを通じて刻々と取り込まれる通信衛星「ひまわり」の画像がOHPに映し出された時には、会場からどよめきが挙がりました。

実技実習は柳原氏の講話の後、数名ずつのグループに分かれてそれぞれのグループにサブインストラクターが1~2名ずつ付く、という形で行われました。グループ毎に1台のパソコンを用意し会場からプロップNETにアクセスして、パソコン通信の楽しさを味わって戴きました。受講生にはセミナーの感想を一言ずつ特別に設置したボードに書き込んで戴きましたが、ワープロも使った事がないという方は、インストラクターに代筆(代タイプ?)を依頼してメッセージを送りました。



企業内で実際に社内NETを運営しておられる柳原氏の説明は、できるだけ専門用語を避けながらの丁寧なもので、大変好評でした。また事前に、講師のお二方が作成下さった力のこもったテキストを戴いておりましたので、充実した資料を受講生の皆さんにお渡しできたのが、事務局としては大変有り難い事でした。

1回3時間というセミナーなので、このセミナーを受けたからといって直ちにバリバリ通信ができる——というものではありませんが、入門編としてパソコン通信の楽しさと有効性は充分伝える事ができたと自負しています。

前述したように、会場の確保がなかなか難しい事ではありますが、公的な建物や、企業のセミナールームなどがお借りできないか今後も努力を続け、これからも機会が有るごとにこのようなセミナーを開催していきたいと思っています。

広範な皆様のご協力を、何卒よろしく願い申しあげます。

VANGUARDいよいよ活動開始!

視覚障害者アクセスマップ作成を目的として活動を始めたVANGUARD、いよいよ地図作りに着手しました。昨年11月19日に行われたボランティア説明会及び、24・26日のミーティングには、多数の皆さんにお集りいただきました。ご協力下さった皆様に誌面を借りてお礼申し上げます。12月5日・18日には、ボランティアの皆さんに、アイマスクを付けて街中を歩き視覚障害を体験してもらう「歩行体験セミナー」が行われました。今後も楽しい企画を交えながら、視覚障害者アクセスマップを完成させていきたいと思えます。2月より実際の調査活動に入りますので、ご協力いただける方を引き続き募集しております。皆様のご参加をお待ちいたします。

◆ 活動記録

- 11月19日 第一回ボランティア説明会
- 24日 ミーティング
- 26日 〃
- 12月5日 歩行体験セミナー(Part1)
- 18日 〃 (Part2)

1月3日 新年会 (品川君の壮行会)

◆ 今後の活動予定

- 1月17日 マップ作成に向けて (意見交換会)
[2月1日~3月末 JR大阪駅・調査
(データ収集)]
- 2月26日 2月定例ミーティング
- 3月26日 3月 〃

ブロップ・ネット[B25]VANGUARD(視覚障害部)のボードでも、打ち合わせなどを行っています。アクセスされた方はぜひ一度覗いてください。亀山は、ハンドルネーム「みゆう」です!



12月5日のアイマスク体験の様子

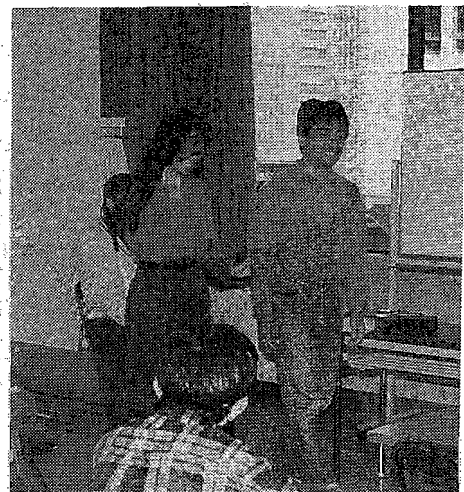
◆ VANGUARDに参加して

もしもしカメよカメさんよ…。大将、亀山さんの激しくも当然の情熱にほだされて、もう足抜け出来ない状況?。

12月5日のアイマスク体験は新鮮だった。にわか視覚障害者とは言え、周りの状況、自分の位置さえわからないことがこれほどまでもどかしいとは。カー・ナビゲーション・システムみたいなものが応用できないかと思うなど、有意義な一日だった。

VANGUARDの目的は地図作り。でもそれ以上に人と知り合う、分かり合うきっかけを与えてもらっている、それだけでも亀山さんには感謝。カメのようにゆっくりでも着実に人の輪を広げたい。それがよりよい地図にもつながると思う。

(広報担当(?) ボランティア: 森川 明義)



◆ VANGUARD連絡先

〒658 神戸市東灘区北青木2丁目2-1-103
TEL. 078-411-7178 代表 亀山英明

PROP PRESS

享月 日 新 聞 1993年(平成5年)11月17日 水曜日

障害者のセミナー

朝日新聞社アサコム

障害者の社会参加を広げ「プ・ステーション」(竹中
 ため「パソコン通信セ ナミ代表)によると、障害
 ミナー」(朝日新聞厚生文 者がパソコン通信を使つて
 化事業団後援)がこのほ とは、距離のハンディなど
 ど、北区中之島の朝日新聞 の克服に役立つが、現状で
 社一階のアサコムで始まっ は交通事情やビルの設備の
 た。この日は、車いすの五 状態から、こうしたセミナー
 人や聴覚障害者三人ら計十 に参加することも難し
 二人が参加した。二十七日 い、という。
 にも開かれる。
 主催の市民団体「プロッ 講師の中野秀男阪大助教
 授(通信工学)は「障害者

パソコン通信で社会参加

でパソコンを使う人が少な
 いため、機器自体が高額に
 なり、障害の状態に合った
 入出力機器の技術開発が遅
 れている。パソコンネット
 を使えば、自治体や企業に
 そろした希望を伝えるこ
 ともできる」と呼びかけ
 た。

参加者は手話を交えて説
 明を受けた後、ボランティ
 アのインストラクターに教
 えられながらパソコンを操
 作していた。

竹中さんは「会場探しも
 大変でした。通信機器メー
 カーなどもまわったが、交
 通が便利で、車いすが容易
 に入れる場所で、パソコン
 通信ができる機器がそろっ
 ているのは他になかった」と
 話している。



体に障害のある人たちがを対象に開かれたパソコン通信講座 北区の朝日新聞大阪本社で

